

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 2

| | | | | |
|----------------------|--|-----------|-----|-----------|
| 団体名 | NPO 法人北海道鉄道文化保存会 | | | |
| 事業名 | 北海道の近代化に貢献した歴史的鉄道遺産の旧手宮線を「花と鉄路の散策路」に | | | |
| 実施期間 | 平成 29 年 4 月～平成 29 年 11 月 | | | |
| 事業の目的及び期待する効果 | <p>(目的) 北海道の鉄道発祥の地の歴史的空間を、住民の手によって季節の花々が奏でるメロデーを楽しみながら歩きたくなる「花と鉄路の散策路」を造る事を目標にして活動を行ってきた。</p> <p>(効果) 平成 28 年 11 月に旧手宮線散策路が全エリア完成したことで、多くの市民が散策路を通勤や、買い物に、また、散策する人から「花の名前は?」とか、「折々に咲く花が楽しみにして歩いています」などの声を頂き、また、観光客も、花をバックに写真を撮ったりする人が多くみられる様になった。市民や観光の人たちが、憩える環境になりつつある兆しが見えたと感じています。</p> <p>花壇作りも 3 年を迎え、漸く宿根草も育ち、変化ある花壇になってきました。今年度は、地域の小学校にご相談して、一緒に花を植え、育てるイベントを設け小学校 3 年生の「地域を知る」時間で参加して頂く事が出来て、児童にとってもよい経験になった様に思います。</p> | | | |
| 実施額 | 事業費 | 581,615 円 | 助成額 | 300,000 円 |
| 事業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1、前年まで進めてきた「中央通り～市道船見線」(A)と「竜宮通り～道道港稲穂線」(C)では、宿根草の整理を行い、各花壇のバランスを図るため、一年草で充実感を出した。 2、更に「市道船見線～竜宮線」(B)のエリアを、カラマツ材で縁取り、黒土、腐葉土で花床造りを行い、宿根草、一年草の植え込みを、「稲穂小学校 3 年生」や、セブンイレブン小樽担当の皆様の協力によって「植花祭」を行った。 3、今年新たに着手した B ブロックのエリアの周りには、桜の木などもあり、周囲のバランスを考慮しながら、花の成長丈を低めの花、ポピー、ユリ、手前にはビオラなどの花々でまとめた。 4、ボランティアで参加のスタッフと、花苗を生産している方を講師に、現場で花の性質などを勉強する機会を 2 回設けた。スタッフには講習会は大変好評でしたので、今後も継続して勉強会を設けていく予定。 5、10 月下旬から花壇の始末を行い、11 月上旬から、水仙、クロッカス、チュウリップの球根の植え込みを行った。 6、4 月からほぼ毎月例会を持ち、作業スケジュールや、様々な問題や、改善点をテーマにして、チームの意思統一に配慮しながら活動してきた。 | | | |

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

○事業の日程について

2 / 2

| 月日 | 内容 | 想定事業効果 (参加人数等) | 事業効果 (実績) |
|---------|--------------------|-------------------|--------------|
| 4月から11月 | 花の例会 | 7~8人 | 7~8人 |
| 4月~10月 | 花の水やり、雑草取り、花壇整備 | 7~8人 | 常時5,6人 |
| 5月 | 囲み花壇6ヶ所ペチニア植え込み | 10人 | 12人 |
| 6月9日 | 植花祭 | 103人 | 112人 |
| 9月26日 | 花育の講習会 | 6~8人 | 6人 |
| 11月 | 球根植え込み(チュウリップ、水仙他) | 7~8人 | 7~8人 |

○事業評価について**1. 事業の目的の達成度**

「小樽まちづくり協働事業」の助成金を3年継続して頂けた事で、市民はもとより観光客の人たちにも喜んで貰える憩いの場所が作ることが出来た事は、大変ありがたく感謝申し上げます。また、歴史的な鉄道遺産のある場所に花壇作りの活動が認められ、他の民間団体からも助成金を頂けた事で、花床、花苗などある程度形にできたことから75点の点数がつけられると感じている。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

花壇作りを始めたころの地域住民は、冷ややかであったが、2年目の後半から少しづつ声をかけてくださり、今年は、ご自宅の花苗を持ってきてくれたり、水やりや、倒れそうになった花を支柱で支えてくれたりと、協力的で感謝している。今後、一緒に参加して下さることも可能になるかなと感じている。継続は力なり。

3. 今後の事業について

まだまだ足りないところがあるが、それを、これからの目標とし「観光都市小樽」として恥ずかしくないように、観光スポットとなれるように頑張って活動していく。
活動を継続していくためにも、参加してくれるボランティアを確保する事が急務。

4. 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」に関する要望事項等